

学校教育目標	「夢中がいっぱい左近山の子」～つながる学び(知)・つながる仲間(徳/体)・つながる地域・未来(公/開) ○自ら問題を見付け、見直しをもってよりよく解決する力を育てます。(知) ○自分を律する態度と人を思いやる優しさをもち、自他を大切にする態度を育てます。(徳) ○規則正しい生活を心がけ、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ○よりよい社会を創るために、地域とともに、自ら考え実践する力を育てます。(公) ○多様性を尊重し、未来を見据えて、共に生きていく力を育てます。(開)			
	創立 14 周年 児童生徒数: 407 人	学校長 荒井 正史 主な関係校: 左近山中学校・本宿中学校 (左近山特別支援学校)	副校長 田宮 真樹	2 学期制 一般学級: 13 個別支援学級: 10

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	左近山中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <共に支え合う力> <社会や未来とつながる力>	左近山中中学校 左近山小学校 (左近山特別支援学校)	自分で発見 みんなで解決 協力できる左近の子 ・三つの資質・能力の一つをブロック授業研のテーマとして設定する。そして、ICTの効果的な活用を図りながら個別最適な学びを通して主体的に学べる授業づくりを目指した授業を展開する。小学校(今年度実施)・中学校が隔年で実施する。[9月22日] ・交流日[10月23日]には、活動に、可能な限り子どもの声を取り入れる。児童は活動のめあてを意識して授業・部活動体験に取り組み、交流後に振り返ることを通じて自分の成長を感じられるようにする。

中期取組目標	○子ども一人ひとりが安心・安全を感じながら、主体的な学びに取り組めるようにします。 ・1年目は個別最適な学びを通して、主体的に学習できる授業づくりを推進します。 ・2年目は様々な教育活動に興味関心をもち、めあてをもって取り組む力を育てます。 ・3年目はめあてにそって自分の考えをもち、振り返ることで学びの自覚化を図ります。 ○まちの「人」とつながりや豊かな体験を通して、まちとともに心を育て、ともに学び育つ土壌をつくります。 ○日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かします。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 研究・研修部	①重点研究では、国語、算数において子どもが安心して主体的に学ぶことができる授業づくりの研究を進める。 ②毎日のスキルタイムでICTを効果的に活用し、基礎内容の反復練習を行い、基礎学力の向上を図る。
徳 豊かな心 担当 心の教育部	①「ふわふわ言葉」「なかよし活動」などの取組を通して、人とかかわりを楽しめる風土作りをする。②2・4・6年生を対象に特別支援学校との交流をする。児童が個別級を正しく理解するための時間を設定し、障害の有無にかかわらず、互いに理解し、支え合う態度の育成に努める。
体 健やかな体 担当 体育部	①学年毎に体力データ分析をして課題を確認し、授業でも意識して取り組み、体力アップタイムで重点的に養成する。②課題に基づいて、縄跳び、5分間走など、体力を高める運動を決め、折に触れて実践する。委員会主催による〇〇大会を開催し、体力アップに関心をもてるようにする。
公開 未来を創る思い 担当 生活科・総合部及び特別活動部	①「地域人材バンク」「学習の足跡の記録」の活用し、生活科・総合的な学習の時間を中心に地域の方と関わりながら学習の充実を図る。②キャリア教育と紐づけた年間指導計画を作成する。また、行事や学級活動の中でのキャリア教育を意図的に行い、実践する。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①全職員で児童を日々見守り、組織的に対応していくことで、児童の安心・安全を保障する。②これまでの事案から学び、いじめを受けた児童の思いを聴き取り、安心につながる初期対応などの研修の時間を設け、実践化につなげる。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 研究・研修部及び教務会	①子どものよさを伸ばすことを目的に、研修に取り組み、実践を通して自分の資質・能力を高める。②全職員で共有した「安心・安全な職場環境」についての視点を確認し、幾つかの具体的な取組を通して、「安心・安全な職場環境」の実現をめざす。
特別支援教育 担当 児童指導	①課題を抱える児童についてアセスメントを行い、学年として個別的教育支援計画・指導計画を作成し、適切な支援・指導を行う。②研修等を通してユニバーサルデザインについての理解を深め、学校全体での合理的配慮の観点からの環境整備に取り組む。
児童指導 担当 児童指導	①朝会で月目標の周知を図るだけでなく、学級で目標に対しての振り返りを行う。振り返りの頻度は、学級の実態に合わせて適宜行うようにする。②「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を職員研修に取り入れたたり、学級で定期的に行う機会を設けたりする。
地域学校協働活動 担当 教務会	①学校運営協議会を中心に協働して研究授業や児童生徒交流に取り組むことを通じて、連携を深め、教育活動に還元する。②子どもたちが、多くの地域の方々や保護者の方々に見守られていることを実感することができる。
情報教育 担当 情報	①AIDリールを取り入れたたり、動画資料などを必要に応じて活用したりすることを通して、一人一台の端末の効果的な活用を図る。②発達段階に応じて情報モラルやマナーについて指導すると同時に、日々変化するSNS等に対応できるようタブレットなどのルールを改定・追記していく。